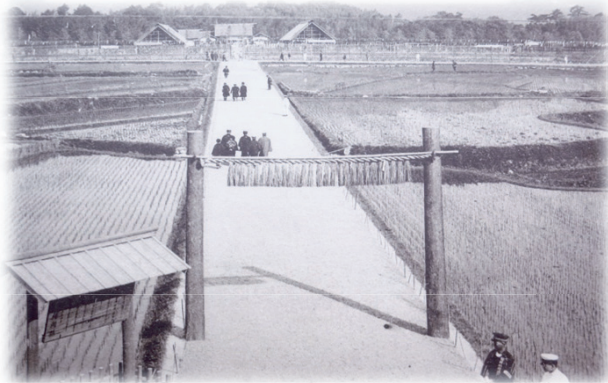


脇山のお田植え舞の今昔



脇山中央公園にある主基斎田碑

脇山の地は、昭和3年の昭和天皇の即位の礼の年に行われた大嘗祭に献上される新米を収穫する主基斎田（すきさいでん）に選ばれました。水がきれいで収穫が早いことと、風俗人情が純朴であるということが選定理由だったということです。昭和3年6月5日の田植え祭には、八人の少女が華やかな八乙女の舞を奉納しました。主基斎田の田植えを今に伝えようと、校区の自治協議会が中心となって「お田植え舞保存会」が結成され、毎年6月の田植えの時期に、早乙女の装束に身を包んだ地元の小学生が古式にのっとった優美な舞を披露しています。現在、主基斎田跡を含む一帯は脇山中央公園として整備されています。



向かって正面が主基斎田



道路正面が脇山中央公園 右の建物が脇山公民館



献上米を運ぶ行列が脇山を出発



献上米を載せた汽車が旧国鉄の西新駅を出発



お田植え舞・昭和43年



お田植え舞・現在